

令和2年所信

■昨年を振り返って

昨年は「平成」から「令和」へと新たな時代の幕が開け、私自身にとりましても市政2期目のスタートの年となりました。市長選挙におきましては戦後初の無投票選挙となり、今は争いよりも『別府を1つに』という市民の皆様の思いがもたらした結果だと思い、これからもおごらず謙虚に市政運営に励んでまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

昨年の1番の話題(トピックス)は、なんと言いましても、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催でありました。5年前から官民あげて準備をしてまいりまして、別府市にはオールブラックスをはじめとする強豪5ヶ国がキャンプインするという、素晴らしい成果を上げることができました。おもてなしゾーンやまちなかに多くの外国人の皆さんに訪れていただいた様子は、多くの皆さんが目の当たりにされたのではないかと思います。まさに「べっぷはONE TEAM」で官民一体となっておもてなしをして、大成功でこのビッグイベントを終えることができました。

新設しましたグラウンドやハイパフォーマンスジム別府、官民挙げて取り組んだ結束力やおもてなし力、そして、県内では唯一の公立中学校でのラグビー部の部活の発足やスポーツを通じた高校生の国際交流など、本大会で得たレガシーをしっかりと引き継ぎ、具体的な取り組みへと進めてまいります。

また、路線価において、別府市では前年の45地点を上回る148地点で地価が上昇いたしました。9月に大分県が発表しました県内の基準地価におきましても、別府市の商業地は26年ぶりに上昇に転じた前年に続いて、全10地点のうち9地点で上昇し、変動率の伸びが県内で最も大きくなりました。

別府市にこれまでになかった国際的ラグジュアリークラスの5つ星ホテル「ANA インターコンチネンタル別府リゾート&スパ」が開業し、海外の富裕層の皆さんへの別府ブランドの浸透など、さらなる別府観光の推進に期待ができるものと思います。そのほかにも新たなホテルが続々と進出の予定です。

以上のようなことから、確実に別府ブランドは上昇し、付加価値が上がってきていると確信しています。

新たな財源の確保にも踏み出した1年でもありました。

入湯税の超過課税を昨年の4月1日から開始し、サロン式外国人向け観光案内所「ワンダ

ーコンパスベップ」の運営や、別府市内の全泉源を対象にした温泉現況調査など、観光振興や温泉保護に関する事業を既にスタートしております。

「BEPPU×デジタルファースト宣言」も行いました。

本市における公的サービス、産業・経済すべての分野におきまして、ITやAIを活用して人手・人材不足等へ対応し、市民サービスの維持・向上を図ってまいります。

防災力の強化にも積極的に取り組みました。

地域の活動団体であります「福祉フォーラム in 別府速見実行委員会」が、「別府市における障がい者インクルーシブ防災」の活動で、総務省消防庁の防災まちづくり大賞の「日本防災・防災協会会長賞」を受賞いたしました。すばらしい成果だと思います。

また、別府市業務継続計画（BCP）を策定しました。あつてはならないことですが、有事に備え取り組みを加速してまいります。

■今年の取り組み

今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。聖火リレーが愛媛県から別府に入り、九州では別府がスタートとなります。パラリピアンとの交流をはじめとして、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーの取り組みを進める「共生社会ホストタウン」への登録も行い、共生社会の実現に向けてさらに推進してまいります。

大会期間中には、パブリックビューイングで観戦できる応援村も設置し、ラグビーワールドカップに負けられないようにしっかりと盛り上げてまいりたいと思います。

そして、私の公約であります重要施策の3本柱「新図書館等の一体的な整備構想」「東洋のブルーラグーン構想」「別府ツーリズムバレー構想」が具体的に動き出す年であります。どれも別府のこれからの発展にとって欠かすことのできない重要政策であり、この3本柱をしっかりと推進していきたいと思っております。

また、現在策定中ですが、別府市の最上位計画である次期総合計画と地方創生のための総合戦略についても、しっかりと整合性をとり、別府にあるものを最大限に活かした計画・戦略を策定してまいります。

別府市役所も戦略的に機構改革を実施いたします。

防災体制の強化といたしまして、新たに「防災局」を新設いたします。また、健康寿命の延伸を図るために、新たに「いきいき健康部」を新設して「健康」に関する事務を一元化し、

子どもから高齢者まで市民全員の健康づくり施策を推進してまいります。さらには、情報推進課を「情報政策課」に改め、昨年の「BEPPU×デジタルファースト宣言」を具体的に実効性のあるものにしていきたいと思っております。

また、将来世代に負担を先送りしないために、痛みを伴う施策にも取り組まなければなりません。

その一つが市営温泉入浴料の改定と公共施設利用料の改定です。本年1月にパブリックコメントを実施し、市民の皆様方のご意見を拝聴する機会を経て、本年の10月からスタートする予定です。

県内の自治体の中でも財政危機が表面化するというニュースがございました。別府市は直ちに財政危機に陥るような状況ではありませんが、全国どの自治体でも同じように、油断は決してできない状況だと思います。今余裕がある時期だからこそ改革をしなければなりません。土壇場になって改革をしようとしても手遅れですので、今、しっかりと行っていく覚悟でございます。

今後も、全ての施策の目的は、市民皆さんの幸せのためであることを胸に、市民に寄り添う市政の実現のために努力を重ねてまいります。

旧に倍しますお力添え、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。